

IBM Unica Marketing Platform

バージョン 8 リリース 6

2012 年 5 月 25 日

リリース・ノート

IBM

注

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、25 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Unica Marketing Platform バージョン 8 リリース 6 モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Unica Marketing Platform
Version 8 Release 6
May 25, 2012
Release Notes

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2012.6

© Copyright IBM Corporation 1996, 2012.

目次

第 1 章 システム要件および互換性.	1
バージョン 8.6.0 の新機能と変更点.	3
バージョン 8.5.0 の新機能と変更点.	5
バージョン 8.2.0 の新機能と変更点.	8
バージョン 8.1.0 の新機能と変更点	10
バージョン 8.0.0 の新機能と変更点	12
第 2 章 修正された問題.	17
第 3 章 既知の問題	19
既知の制限	19
サード・パーティーのソフトウェアに関連した問題	23
特記事項	25
商標.	27
IBM Unica テクニカル・サポートへのお 問い合わせ	29

第 1 章 システム要件および互換性

このセクションでは、IBM® Unica Marketing Platform の本リリースのシステム要件および互換性に関する情報をどこで入手できるかについて説明します。また、サード・パーティーのソフトウェアに対するサポートの変更点を説明します。

完全なシステム要件と互換性情報が見つかる場所

この製品と互換性のある IBM Unica Marketing 製品のバージョンのリストについては、IBM Unica 製品技術サポートの Web サイト (<http://www.unica.com/about/product-technical-support>) の「資料」の下に掲載されている「*IBM Unica Compatibility Matrix*」や他の製品互換性ドキュメントを参照してください。

この製品に対するサード・パーティー要件のリストについては、「推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」というドキュメントを参照してください。このファイルは、IBM Unica 製品技術サポートの Web サイト (<http://www.unica.com/about/product-technical-support>) の「資料」の下に掲載されています。IBM Unica Marketing にログインした後、「ヘルプ」>「製品ドキュメント」を選択することによって、この文書にアクセスすることもできます。

Marketing Platform バージョン 8.6.0 における主要なサード・パーティーのソフトウェアに対するサポートの変更点

Marketing Platform バージョン 8.6.0 では、次の新しいバージョンのサード・パーティーのソフトウェアに対するサポートが追加されました。

オペレーティング・システム

- Solaris 11.1 (SPARC)
- RHEL 5.7 および 6.1

アプリケーション・サーバー

- IBM WebSphere® 8.0

ブラウザ

- Microsoft Internet Explorer 9 (Windows 7) (32 ビットのみ)
- Safari 4.0.4 および 5.1 (Mac OS X 10.6)

Marketing Operations の場合のみ。Campaign およびそれに従属する製品では Internet Explorer が必要です。

ディレクトリー・サーバー

- Windows Server 2008 R2 Active Directory
(NTLM 2 はまだサポートされていません。)

レポート作成

- Cognos® BI 10.1.1 (32 ビット)

Marketing Platform バージョン 8.6.0 では、次のバージョンのサード・パーティーのソフトウェアに対するサポートが終了しました。

システム・テーブル・データベース

- DB2® 9.1
- SQL Server 2005
- Oracle 10.2

ユーザー・テーブル・データベース

- DB2 9.1
- SQL Server 2005

オペレーティング・システム

- 32 ビットのサポートすべて
- RHEL 5.1
- RHEL 4.x
- SLES 9

アプリケーション・サーバー

- WebSphere 6.1
- WebLogic 9.2

レポート作成

- Cognos BI 8.4

Marketing Platform バージョン 8.5.0 における主要なサード・パーティーのソフトウェアに対するサポートの変更点

Marketing Platform バージョン 8.5.0 では、次の新しいバージョンのサード・パーティーのソフトウェアに対するサポートが追加されました。

オペレーティング・システム

- AIX® 7.1
- Windows Server 2008 R2

ブラウザ

- Internet Explorer 9

Marketing Platform バージョン 8.5.0 では、次のバージョンのサード・パーティーのソフトウェアに対するサポートが終了しました。

データベース

- Oracle 10.1

ブラウザ

- Internet Explorer 6

Marketing Platform バージョン 8.2.0 における主要なサード・パーティーのソフトウェアに対するサポートの変更点

Marketing Platform バージョン 8.2.0 では、次の新しいバージョンのサード・パーティーのソフトウェアに対するサポートが追加されました。

ディレクトリー・サーバー統合

- Active Directory 2008

Web アプリケーション・サーバー

- WebLogic 11g

データベース

- Oracle 11g R2

オペレーティング・システム

- SLES v11

ブラウザ

- Safari 4.0.2

Marketing Platform バージョン 8.1.0 における主要なサード・パーティーのソフトウェアに対するサポートの変更点

Marketing Platform バージョン 8.1.0 では、次の新しいバージョンのサード・パーティーのソフトウェアに対するサポートが追加されました。

オペレーティング・システム

- AIX 6.1
- Windows 2008 Server (32 ビットおよび 64 ビット)

データベース

- Oracle 11.1

Marketing Platform バージョン 8.1.0 では、次のバージョンのサード・パーティーのソフトウェアに対するサポートが終了しました。

オペレーティング・システム

- AIX 5.2
- RHEL 3 x86 (32 ビット)

データベース

- DB2 8.1、8.2
- Oracle 9.2

バージョン 8.6.0 の新機能と変更点

このセクションでは、Marketing Platform バージョン 8.6.0 における新機能と変更点について説明します。

IBM Coremetrics® Web Analytics とのシングル・サインオンが使用可能

組織で IBM Coremetrics Web Analytics を使用する場合、IBM Coremetrics と IBM Unica Marketing との間でシングル・サインオンを有効にできます。シングル・サインオンを使用すると、ユーザーは、IBM Unica Marketing ユーザー・インターフェースから IBM Coremetrics レポートに移動する際に、ログインを求められることがなくなります。

また、IBM Unica Marketing ダッシュボードで IBM Coremetrics レポートを参照する場合、シングル・サインオンでユーザーはこうしたレポートを表示できるようになります (IBM Coremetrics でレポートに対するアクセス権がある場合)。

ダッシュボードの拡張

本リリースではダッシュボードのコンポーネントが全面的に改訂されました。以下の機能拡張が実装されました。

- ダッシュボードのための別個の WAR ファイルがなくなりました。以前にインストール・プロセス中に実行する必要があったいくつかの手動の手順で実行する必要がなくなりました。インストールの占有スペースもかなり小さくなりました。(ENH10460)
- ダッシュボードは全面的に Marketing Platform セキュリティー・モデルと統合しました。IBM Unica Marketing アカウントを持ってはいても IBM Unica Marketing にログインしたことの無いユーザーを表示するために、ダッシュボードのユーザー・リストを最新表示することは必要なくなりました。さらに、管理者はグループ・メンバーシップを介してアクセス権限を付与することができるようになりました (以前は、ユーザーごとのみにアクセス権限を付与)。(ENH10344、ENH10162、ENH11049)
- ダッシュボードのユーザー・インターフェースはアップデートされた結果、ユーザビリティは向上し、外観はより最新になりました。
- グローバリゼーション・サポートが向上しました。
- ダッシュボードのポートレットを使用可能にした後に Web アプリケーション・サーバーを再始動することは必要なくなりました。
- 各ダッシュボードにはダッシュボードにアクセス権限を持つ各ユーザー、グループ、および管理者をリストしたレポートが含まれます。(ENH10342)
- ダッシュボード管理者によってユーザー・レイアウトが使用可能になっている場合、ユーザーはアクセス権限のあるダッシュボードのレイアウトを変更することができます。(ENH10364)
- インストール済み環境で非 ASCII 文字をサポートする必要がある場合、Marketing Platform が配置されている Web アプリケーション・サーバー (WebLogic または WebSphere) では、`-Dfile.encoding Java` オプションを設定する必要はなくなりました。以前はダッシュボードで行う必要がありました。

外部トリガーを有効にする新しいスケジューラーのコマンド・ライン・ユーティリティー

IBM Unica スケジューラーは外部アプリケーションから送信されたトリガーに応答できるようになりました。 `scheduler_console_client` ユーティリティーはこの機

能を有効にします。このユーティリティーは、そのトリガーを listen するためにセットアップされた 1 つ以上のスケジュールを起動することができるトリガーを発行します。scheduler_console_client はバッチまたはシェル・スクリプト・アプリケーションであるため、別のバッチまたはシェル・スクリプトを使用して、外部アプリケーションから呼び出すことができます。(ENH09531)

Cognos BI 10.1.1 (32 ビット) を必要とする Cognos レポート

IBM Unica Enterprise 製品のバージョン 8.6.0 では、IBM Cognos と統合されたレポートは、Cognos BI 10.1.1 (32 ビット) を必要とします。

Marketing Platform をバージョン 8.6.0 にアップグレードした場合、インストーラーは以下のレポート作成に関連した構成プロパティーの変更を実装します。

- Cognos 8.4 統合プロパティーは使用不可で、この統合では使用可能フラグは非表示です。
- インストーラーは Cognos 10.1.1 統合プロパティーをインポートします。

Cognos 10.1.1 にアップグレードした後、統合を使用可能にするために新規のプロパティーを設定することができます。新規のプロパティーを設定しても Cognos 8 のプロパティーは参照のために使用可能な状態ですが、将来の混乱を防ぐために、アップグレードが完了してテストされた後にそれらを除去してください。このことは、「[カテゴリーの削除](#)」リンクを使用して実行できます。

インストーラーの拡張

製品インストーラーに以下の機能拡張が実装されました。

- 不在 (サイレント) モードの場合は、以下のとおりです。
 - インストーラーは応答ファイルを消去することはなくなりました。それで、不在モードで使用するためにそれらを保存することは容易になりました。
 - 不在モードで使用するために、データベースのパスワードは手動で応答ファイルに (平文で) 入力することができるようになりました。
- 製品を再インストールする場合、応答ファイルはユーザーが入力したデータベースのパスワード、IBM サイト ID コード、ポート番号、および JDBC ドライバー・クラスパスを保持するようになったので、ユーザーは情報を再入力する必要がありません。(ENH10292)
- ソフトウェアを物理メディアで入手した場合、ディスクから直接インストーラーを実行することができます (しかし、ハード・ディスクにコピーしたほうがインストーラーはより速く実行されます)。
- インストーラーのログ・ファイルはファイル名にタイム・スタンプを含むようになったので、以前のログ・ファイルは上書きされません。
- インストーラーのログ・ファイルはローカライズされるようになりました。

バージョン 8.5.0 の新機能と変更点

このセクションでは、Marketing Platform バージョン 8.5.0 における新機能と変更点について説明します。

IBM Unica 製品の言語サポート

リリース 8.5.0 では、IBM Unica 製品は以下の言語をサポートします。

- ブラジル・ポルトガル語
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- 中国語 (簡体字)
- スペイン語

IBM Unica Marketing のインストール済み環境で中国語 (簡体字)、日本語、韓国語のような非 ASCII 文字を使用する言語をサポートすることが必要な場合、Web アプリケーション・サーバーに Java オプション `-Dfile.encoding=UTF-8` を追加することが必要です。(DEF056849)

ロケール設定について詳しくは、「*IBM Unica Marketing Platform Administrator's Guide*」を参照してください。

IBM Unica Marketing インターフェースへの新しいスケジューラー・ボタンの追加

スケジューラー・ボタンは、スケジューリングが構成できる IBM Unica Marketing アプリケーションのエリア内の IBM Unica Marketing ユーザー・インターフェースのナビゲーション・バーの上部に表示されるようになりました。

IBM Unica スケジューラーを使用して Optimize 実行のスケジュールが可能

IBM Unica Marketing Platform の IBM Unica スケジューラーを使用して、Optimize 実行をスケジュールすることができるようになりました。Optimize の新しいスケジュール・ボックスを使用して、ワнтаイム、トリガー、または繰り返し実行をスケジュールすることができます。スケジュールされた Optimize セッション内のフローチャートが正常に完了すると、Optimize セッションが実行されます。追加情報については、「*IBM Unica Optimize 8.5.0 ユーザー・ガイド*」を参照してください。(ENH08265)

Optimize 後の実行をスケジュールすることもできます。このことを実現するには、Optimize セッションをスケジュールし、最適化後フローチャートで「成功時にトリガー」を設定します。(ENH08747)

より高い精度のレベルをサポートする IBM Unica スケジューラー

IBM Unica スケジューラーを使用すると、時間、分、および秒という精度のレベルでタスクをスケジュールできるようになりました。(以前には、30 分単位でスケジュールできるのみでした。) 例えば、タスクを 16:23:05 に開始するようにスケジュールできるようになりました。この新しい精度のレベルは、

「トリガー発生時に」および「指定日以後」タスクを含むタスクすべてに適用されます。(ENH08430)

ローカライズされた日時が使用可能な IBM Unica スケジューラー

サーバーが存在しているタイム・ゾーンまたは他の任意のタイム・ゾーンに基づいて、IBM Unica スケジューラーでタスクをスケジュールすることができます。デフォルトでサーバーのタイム・ゾーンが選択され、タイム・ゾーン選択の一番上に表示されます。別のタイム・ゾーンを選択した場合、そのタイム・ゾーンが適用されます。(ENH09378)

AND 従属関係をサポートする IBM Unica スケジューラー

IBM Unica スケジューラーが AND 従属関係をサポートするようになりました。両方の親タスクおよび AND 条件が非反復タスクでなければなりません。例えば、フローチャート A およびフローチャート B およびフローチャート C が完了した後に IBM Unica Campaign フローチャート D を実行することができます。このことを行うには、「開始時期」ドロップダウンを選択してから、「他のタスクの完了時」オプションを選択します。非反復タスクだけがリストに表示され、選択して実行することができます。(ENH09532)

「スケジュールされた実行の表示」ページの拡張

「スケジュールされた実行の表示」ページで以下の機能が拡張されました。

- フローチャートから「スケジュールされた実行の表示」ページに移動すると、そのフローチャートの実行のリストだけが表示されるようになりました (以前のリリースでは、すべてのスケジュールされた実行が表示されました)。(ENH10662)
- リスト内のスケジュール済み項目は、フローチャートに直接進むリンクになりました。(ENH08957)

IBM Unica Marketing インストーラーにおけるいくつかの改善

IBM Unica Marketing インストーラーでは、以下の機能が拡張されました。

- IBM Unica マスター・インストーラーは、Marketing Platform データベースへの接続をテストします。インストールが正常に完了するためには、Marketing Platform データベース接続情報は重要であるため、データベース接続テストが失敗した場合には、インストールを継続するオプションはなくなりました。(ENH10592)
- すべての製品で、フリー・フォームのテキストを入力するインストーラー・ウィザードのフィールドで、インストーラーは前後のスペースを切り取るようになりました。これにより、インストール・プロセス中のエラーを削減することができます。(ENH10290)
- Marketing Platform インストーラー・ウィザードの「Platform ユーティリティ設定」画面で「JDBC 接続 URL」フィールドを編集できるようになりました。このフィールドは以前は読み取り専用でした。(ENH10294)
- 以前のリリースでは、データベースが Oracle で、Web アプリケーション・サーバーが WebLogic で、IBM Unica スケジューラーを使用することを計画している場合、手動の手順を実行する必要がありました。本リリースでは、Marketing

Platform インストーラーが、unica.war ファイルの scheduler-config-server.xml ファイルに対して必要な変更を行います。(ENH10294)

- IBM Unica 製品の新規インストールを実行した直後にパッチをインストールすることを計画している場合、製品の基本バージョンおよび IBM Unica マスター・インストーラーが含まれるディレクトリーにパッチ・インストーラーを配置することができます。インストーラーを実行するとき、基本バージョンとパッチの両方を選択できます。そうすると、インストーラーは両方を正しい順にインストールします。ディレクトリーに複数のパッチがある場合、最新の累積されたパッチだけが正しく表示されます。(ENH10389)

バージョン 8.2.0 の新機能と変更点

このセクションでは、Marketing Platform バージョン 8.2.0 における新機能と変更点について説明します。

2 つの新しい LDAP 構成プロパティーの追加

「Affinium Suite」|「セキュリティ」|「LDAP 同期」カテゴリーに 2 つの新しい構成プロパティー「LDAP 同期タイムアウト (分単位)」および

「ldapLastSyncStart」が追加されました。

- 「LDAP 同期タイムアウト (分単位)」プロパティーは、同期化の開始後に Platform がプロセスを終了したとマーク付けする前の時間の最大長を指定します。Platform で実行できるのは、一度に 1 つの同期プロセスだけです。同期が失敗すると、正常に完了したかどうかに関係なく、終了したものとしてマークが付けられます。デフォルトの間隔は 10 時間です。

クラスター環境では、これがとても役立ちます。例えば、Platform がクラスター内に配置されている場合、クラスター内の 1 つのサーバーが LDAP 同期を開始し、そのプロセスに終了のマーク付けが行われる前にダウンする場合も考えられます。Platform は、このプロパティーで指定された時間だけ待ってから、次にスケジュールされている同期化を開始します。

- 「ldapLastSyncStart」プロパティーは非表示プロパティーで、自動同期化を管理するために Platform が使用します。

2 つの LDAP 構成プロパティーの除去

以下の LDAP 構成プロパティーが除去され、Marketing Platform で LDAP 統合を構成する際に使用されなくなりました。

- 「LDAP 同期詳細スコープ (LDAP sync detail scope)」 — バージョン 8.2.0 では、このプロパティーが SUBTREE に設定されたときと同様に LDAP 検索が機能します。
- 「AM ユーザー作成用の LDAP 参照 (LDAP references for AM user creation)」 — Marketing Platform は以前このプロパティーを使用して、Platform でどの LDAP ユーザーを作成するのかを判別していました。ユーザーは、「Unica グループ・マップの LDAP 参照」プロパティーを使用して、Platform グループにマップされた LDAP グループのメンバーシップに基づいて作成されるようになりました。これはアップグレードの手順に影響します。詳細については、「IBM Unica Marketing Platform インストール・ガイド」を参照してください。

LDAP 同期の振る舞いの変更

- 以前のリリースでは、LDAP サーバーから削除されたユーザー・アカウントは手動の同期中にのみ更新されました。本リリースでは、削除されたユーザー・アカウントは、定期的な同期中にも更新されるようになりました。
- 以前のリリースでは、LDAP グループのメンバーシップの変更は手動の同期中にのみ更新されました。本リリースでは、グループのメンバーシップの変更は定期的な同期中にも更新されるようになりました。
- 以前のリリースでは、LDAP 同期は Marketing Platform Web アプリケーションが開始した時に実行されました。本リリースでは、Marketing Platform が開始する時、次の定期的な同期がスケジュールされた場合に (「LDAP 同期間隔」プロパティによって決定) LDAP 同期が開始します。(ENH09453)

外部ユーティリティーの認証の振る舞いの変更

以前のバージョンでは、IBM Unica 製品 (Marketing Platform を除く) に属するコマンド・ライン・ユーティリティーを実行し、そのユーティリティーが Platform のシステム・テーブルにアクセスすると、Platform はユーザーの資格情報を Platform システム・テーブル・データベースに格納されている情報に対してチェックしていました。Platform が LDAP サーバーに統合されていた場合、ユーザーのパスワードは Platform データベースに格納されません。LDAP サーバーからインポートされたユーザー・アカウントの場合、Platform データベースでパスワードは空になっています。そのため、LDAP サーバーからインポートされたユーザーがこれらの外部ユーティリティーの 1 つを実行した場合、Platform は資格情報をチェックしませんでした。

バージョン 8.2.0 では、IBM Unica 製品 (Platform を除く) に属するユーティリティーをユーザーが実行した場合、認証は次のように処理されます。

- ログイン・モードが LDAP の場合。
- ログイン・モードが LDAP ではない場合、パスワードの比較は以前と同様に実行されます。ログイン・モードを決定する設定は、「ログイン方式」です。
「Affinium Suite」|「セキュリティ」カテゴリの「設定」>「構成」ページにあります。(VER00403)

configTool ユーティリティーで下位ノードの削除ができるようになった

configTool ユーティリティーに新しいコマンドが追加されました。-dc オプションを使用すると、構成プロパティ階層の指定したノードの子すべては削除されます。この機能拡張は、多数のパーティションの管理を容易にするために追加されました。(ENH09744、ENH09744)

修正された 7.5.1 インストール・ガイド

7.5.0 より前のバージョンの Platform からバージョン 8.0.0 以降にアップグレードするには、まずバージョン 7.5.1 にアップグレードする必要があります。Affinium Manager 7.5.1 のソフトウェアに同梱された版の「Affinium Manager 7.5.1 Installation Guide」のアップグレードの説明は間違っていました。7.3.0 より前のバージョンから Marketing Platform バージョン 8.2.0 へアップグレードする前に、訂正版を入手する必要があります。

最新版の「*Affinium Manager 7.5.1 Installation Guide*」は Customer Central または IBM Unica テクニカル・サポートと連絡を取って入手することができます。タイトル・ページにある発行日が 2010 年 7 月 6 日以降であれば、それは訂正されたガイドです。

改訂されたガイドの「7.3.0 より前のバージョンまたは組み込みデータ・ストアを使用したバージョン 7.3.x からのアップグレード」の章は訂正されています。以下の修正が行われています。

- 格納されたパスワードに関して問題を引き起こす不要な手順は削除されました。
- パーティションが正しく移行されるようにする手順が追加されました。

バージョン 8.1.0 の新機能と変更点

このセクションでは、Marketing Platform バージョン 8.1.0 における新機能と変更点について説明します。

インストール・ガイドが改訂されてアップグレードの説明の誤りを訂正

7.5.0 より前のバージョンの Marketing Platform からバージョン 8.0.0 以降にアップグレードするには、まずバージョン 7.5.1 にアップグレードする必要があります。Manager 7.5.0 および 7.5.1 ソフトウェアに付属しているインストール・ガイドには、誤りが含まれています。これらいずれかのガイドを使用すると、アップグレードで問題が生じる可能性があります。代わりに、訂正版の「*Affinium Manager 7.5.1 Installation Guide*」にある説明に従う必要があります。このガイドは、Customer Central から入手することも、IBM Unica テクニカル・サポートと連絡を取って入手することもできます。(ソフトウェアは 7.5.x バージョンから 8.1.x への直接アップグレードをサポートしていますが、「*Affinium Manager 7.5.0 Installation Guide*」のアップグレードの説明が訂正されていません。7.5.0 より前のバージョンの場合は、バージョン 7.5.1 にアップグレードし、訂正された説明に従ってください。)

改訂されたガイドの『*Upgrading from pre-7.3.0 Versions or Version 7.3.x with the Embedded Data Store*』および『*Upgrading from Version 7.3.x with an External Database or any Later Version*』の章が訂正されています。以下の修正が行われています。

- 「7.3.0 より前のバージョンまたは組み込みデータ・ストアを使用したバージョン 7.3.x からのアップグレード」の章から、格納されたパスワードに関して問題を引き起こす不要な手順は削除されました。
- 両方の章に、パーティションが正しく移行されるようにする手順が追加されました。

同時に、7.5.1 のガイドに対する訂正に関する詳細な説明は「*IBM Unica Marketing Platform 8.1.0 Installation Guide*」から取り除かれました。これらについては、訂正された 7.5.1 のガイドで説明されているためです。

最新版の「*Affinium Manager 7.5.1 Installation Guide*」および「*IBM Unica Marketing Platform 8.1.0 Installation Guide*」は、Customer Central または IBM Unica テクニカル・サポートと連絡を取って入手することができます。タイトル・ページにある発行日が 2010 年 7 月 6 日以降であれば、それは訂正されたガイドです。

ユーザー・インターフェースおよびドキュメントの他の言語のサポートの追加

Marketing Platform バージョン 8.1.0 では、ユーザー・インターフェース、管理者ガイドおよびオンライン・ヘルプは以下の言語でサポートされています。

- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- スペイン語

マルチバイト・データを含む国際的なデータに対するサポートが追加されています。(ENH09210、ENH09133)

個々のユーザーの検索のサポート

ユーザー管理のページで、ページの上にある検索ボックスを使用して IBM Unica Marketing ユーザーを検索することができます。ユーザーのユーザー名、名、姓、または E メール・アドレスで検索することができます。(ENH09019)

クラスター環境へのサポートの向上

Marketing Platform は、クラスター環境に配置された Marketing Operations をサポートするようになりました。

インストール・プロセスの拡張

以下のインストーラーの機能拡張が導入されました。

- Marketing Platform 7.5.1 からのアップグレード中に、8.x ファイルを 7.5.1 インストール・ディレクトリーにインストールしないでください。このことが行われないように、インストーラーは 8.x インストール用に指定されたディレクトリーをチェックします。選択されたディレクトリーが 7.5.1 インストール・ディレクトリーの場合、インストーラーは警告メッセージを表示します。(ENH08626)
- 新規のインストールで、インストーラーが Marketing Platform のシステム・テーブルを作成しそこにデータを設定する代わりに、手動によるデータベースのセットアップの実行を選択する場合、システム・テーブルを手動で作成した後、インストーラーを再実行して、必要なセキュリティー役割、デフォルトの管理ユーザー、および構成データをシステム・テーブルに設定させることができるようになりました。詳しい手順については、「*Marketing Platform 8.1.0 Installation Guide*」を参照してください。
- Cognos レポート・コンポーネントをインストールする場合、インストーラーは Cognos インストール環境の `webapps\p2pd\WEB-INF\AAA\lib` ディレクトリーに JDBC データベース・ドライバーを配置するように促します。

無効なアカウントのログイン時の新規メッセージの表示

無効にされたアカウントを持つユーザーが IBM Unica Marketing にログインしようとする場合、システムは「ログイン失敗: ユーザーは無効です (Login failed: User is disabled)」というメッセージを表示するようになりました。このメッセージが表示さ

れたユーザーは、アカウントを再度有効にすることを要求する必要があります。
(ENH06576)

IBM Unica のドキュメントはホストされる

IBM Unica Marketing では、オンライン・ヘルプおよび PDF ファイルは製品と共にインストールされることはなくなりました。その代わりに、IBM Unica 製品のドキュメントは、IBM によってホストされるリモート・サーバーに存在します。IBM Unica Marketing 製品にあるヘルプ・リンクの 1 つをクリックすると、インターネットを介して、ホストされたサーバーのヘルプの内容にアクセスすることができます。

コンテンツがホストされているので、IBM Unica は継続的にコンテンツを更新および追加できます。IBM Unica 製品から最新のコンテンツに常にアクセスすることができます。追加および修正されたドキュメントにアクセスするために製品のリリースを待つ必要はありません。

IBM Unica Marketing ユーザー・インターフェースで、以下の「ヘルプ」をクリックすることによって IBM Unica のドキュメントにアクセスできます。

- 「このページのヘルプ」— このリンクをクリックすると、作業中の製品ページ固有の HTML コンテンツにアクセスすることができます。
- 「製品ドキュメント」— このリンクをクリックすると、作業中の製品の PDF ドキュメントの索引にアクセスすることができます。
- 「IBM Unica の全ドキュメント」— このリンクをクリックすると、IBM Unica 製品すべてで利用可能な PDF ドキュメントの索引にアクセスすることができます。

Customer Central (<https://customercentral.unica.com>) を使用して IBM Unica 製品すべての PDF マニュアルにアクセスすることもできます。

注: 設置場所にインターネット接続環境がない場合、ローカルのネットワーク内にオンライン・ドキュメントをダウンロードしインストールすることができます。ただし、最新のドキュメントは常にホストされたドキュメント・サーバーに存在することにご注意ください。ローカルにインストールすることを選択した場合、定期的な更新を受け取ることができません。ドキュメント・パッケージをダウンロードすることが必要な場合は、IBM Unica 技術サポートにお問い合わせください。

バージョン 8.0.0 の新機能と変更点

このセクションでは、Marketing Platform バージョン 8.0.0 における新機能と変更点について説明します。

Affinium Manager の名前変更

IBM Unica Marketing の 8.0.0 リリースでは、Affinium Manager は Marketing Platform に名前が変更されました。この新しい名前は、このリリースで実装されたアーキテクチャーの変更を反映しています。Affinium Manager によってサポートされているセキュリティー、レポート作成および構成機能に加えて、Marketing Platform は共通のユーザー・インターフェース、スケジューラー、およびダッシュボードを提供するようになりました。

Affinium Reports の変更

Affinium Reports は以下のとおり変更されました。

- レポート作成機能は、Marketing Platform のコンポーネントの 1 つになりました。IBM Unica Marketing レポートは、Affinium Reports 7.5.x の場合のように別個のインストール済み環境として提供されることはなくなりました。
- コンタクト・ステータスのカスタマイズおよびレポート作成は、Campaign のレポート作成スキーマ (応答タイプに類似) に追加されました。
- フォルダー・レベルのセキュリティーは、Campaign の IBM Cognos レポートおよび関連製品で使用可能です。

アプリケーション・アクセスは役割に置き換えられた

Affinium Manager のアプリケーション・アクセス機能は、Marketing Platform の役割に置き換えられました。ユーザーを、役割を持つグループのメンバーにする (Affinium Manager におけるアプリケーション・アクセスの割り当ての方法に類似) ことによってか、または役割を個別のユーザーに割り当てる (本リリースで新たに導入) ことによって、役割を割り当てられるようになりました。

共通ユーザー・インターフェースの実装

Marketing Platform は、IBM Unica Marketing アプリケーション用の共通のアクセス・ポイントとユーザー・インターフェースを提供するようになりました。この機能には以下の利点があります。

- 複数の IBM Unica Marketing 製品がインストールされている場合、ユーザーは新規ウィンドウを起動せずに製品間で改善されたナビゲーションを使用することができます。
- ユーザーは、最近訪問したページのリストを表示し、それらの任意のページに移動できます。
- IBM Unica Marketing にログインした際に表示される最初のページとしてホーム・ページに選択することができます。

新しいスケジューラーの機能の追加

新規の IBM Unica Scheduler を使用すると、プロセスを定義した間隔で実行するように構成することができます。現在は、IBM Unica Scheduler を使用して、Campaign のフローチャートの実行および eMessage メーリングのスケジュールできます。

ダッシュボード機能の追加

ダッシュボードは、会社内部でさまざまな役割を果たすユーザのグループにとって役立つ情報が含まれている、構成可能なページです。管理者は、ダッシュボードを作成し、ポートレットと呼ばれるコンポーネントを追加してダッシュボードを構成します。

IBM Unica Marketing ポートレットは、IBM Unica Marketing ユーザーが追跡する際に重要となり得るキー・メトリックと、IBM Unica Marketing ページにアクセスする便利な方法として使用できるリンクのリストを提供します。ダッシュボードには、事前定義の IBM ポートレットまたはユーザー作成のポートレットを入れるこ

とができます。ユーザー作成のポートレットは、IBM Unica Marketing のページ、会社のイントラネット上のページ、またはインターネット上のページにできます。

インストーラーの拡張

すべての IBM 製品インストーラーは拡張されました。複数の製品をインストールする場合、複数のインストーラーを別々に実行する必要はなくなりました。その代わりに、ダウンロード済み製品すべてをマスター IBM インストーラーと共に 1 つのディレクトリーに配置します。次に、どの製品および製品コンポーネントをインストールするかと、それをインストールする場所を選択することができます。

新しいインストーラーは、選択したインストール済み製品の任意の組み合わせの EAR ファイルの作成をサポートするようになりました。

Marketing Platform インストーラーは Marketing Platform システム・テーブルを自動的に作成してデータを設定することができるようになり、Affinium Manager 7.5.x のインストール済み環境からのデータのインプレース・アップグレードをサポートします。

IBM Unica のドキュメントはホストされる

IBM Unica Marketing では、オンライン・ヘルプおよび PDF ファイルは製品と共にインストールされることはなくなりました。その代わりに、IBM Unica 製品のドキュメントは、IBM によってホストされるリモート・サーバーに存在します。IBM Unica Marketing 製品にあるヘルプ・リンクの 1 つをクリックすると、インターネットを介して、ホストされたサーバーのヘルプの内容にアクセスすることができます。

コンテンツがホストされているので、IBM Unica は継続的にコンテンツを更新および追加できます。IBM Unica 製品から最新のコンテンツに常にアクセスすることができます。追加および修正されたドキュメントにアクセスするために製品のリリースを待つ必要はありません。

IBM Unica Marketing 8.0.0 ユーザー・インターフェースで、以下の「ヘルプ」をクリックすることによって IBM Unica のドキュメントにアクセスできます。

- 「このページのヘルプ」 — このリンクをクリックすると、作業中の製品ページ固有の HTML コンテンツにアクセスすることができます。
- 「製品ドキュメント」 — このリンクをクリックすると、作業中の製品の PDF ドキュメントの索引にアクセスすることができます。
- 「IBM Unica の全ドキュメント」 — このリンクをクリックすると、IBM Unica Marketing 8.0.0 製品すべてで利用可能な PDF ドキュメントの索引にアクセスすることができます。

Customer Central (<https://customercentral.unica.com>) を使用して IBM Unica Marketing 製品すべての PDF マニュアルにアクセスすることもできます。

注: 設置場所にインターネット接続環境がない場合、ローカルのネットワーク内にオンライン・ドキュメントをダウンロードしインストールすることができます。ただし、最新のドキュメントは常にホストされたドキュメント・サーバーに存在することにご注意ください。ローカルにインストールすることを選択した場合、定期的

な更新を受け取ることができません。ドキュメント・パッケージをダウンロードすることが必要な場合は、IBM Unica 技術サポートにお問い合わせください。

第 2 章 修正された問題

このセクションでは、Marketing Platform バージョン 8.6.0 における修正された問題について説明します。

DEF042336	UNIX で、コンソール・モードでのインストールを取り消した後に EAR ファイルのプロンプトが表示されなくなりました。
DEF043744、 DEF051161、 DEF051659	分かりにくく重要ではないエラーがインストール・ログに出力されなくなりました。
DEF047541	インストーラーは入力データにある余分のスペースを処理するようになりました。
DEF047599	管理ダッシュボードのユーザーのリストは正しくソートされるようになりました。
DEF047850	ダッシュボード管理者は、AIX-DB2 9.1 上の管理ダッシュボードにデータを設定する必要がなくなりました。
DEF047905	Marketing Operations から削除されたキャンペーンは Campaign レポートに出力されなくなりました。
DEF051839	Marketing Platform アップグレード中に重大でないエラーは発生しなくなりました。
DEF056300	ダッシュボードで使用することができる NetInsight ポートレットが、使用可能なポートレットのリストから欠落することはなくなりました。
DEF057728	partitionTool ユーティリティーでマルチバイト文字の処理が可能になりました。
DEF059838	不在モードの応答ファイルを作成するためにインストーラーの GUI バージョンを使用する場合、システム・テーブルは自動的に作成されるようになりました。
DEF059936、 DEF050894	ダッシュボードは非 ASCII 文字、または @ 記号を含むユーザー名、または数字で始まるユーザー名をサポートするようになりました。さらに、ダッシュボードおよびポートレット名に非 ASCII 文字を含めることができます。
DEF060856	「復元」オプションは機能しなかったためダッシュボード構成から除去されました。

第 3 章 既知の問題

このセクションでは、Marketing Platform バージョン 8.6.0 における既知の問題について説明します。

Cognos レポートの Excel 版を表示するには、Internet Explorer 8 の設定を調整することが必要	DEF063223	Internet Explorer バージョン 8.x を使用する場合、Cognos に基づくレポートで Excel オプションを使用するには、ブラウザ設定で次の調整をする必要があります。 <ol style="list-style-type: none">1. Internet Explorer で、「ツール」>「インターネットオプション」の順に選択します。2. 「セキュリティ」タブで「インターネット」ゾーンを選択し、「レベルのカスタマイズ」をクリックして、対象となるゾーンの「セキュリティ設定」ウィンドウを開きます。3. 「ダウンロード」セクションへスクロールダウンし、「ファイルのダウンロード時に自動的にダイアログを表示」で「有効にする」を選択します。
役割名およびポリシー名に非 ASCII 文字がサポートされない	DEF051431	セキュリティ役割名またはポリシー名で非 ASCII 文字を使用しようとする、「英数字のみ使用してください」というエラー・メッセージが表示されます。これらの名前に非 ASCII 文字を使用しないでください。

既知の制限

このセクションでは、Marketing Platform バージョン 8.6.0 における既知の制限について説明します。

レポート・フォルダの権限はパーティション間で同期する	DEF045222	マルチ・パーティション環境では、1 つのパーティションでレポート・フォルダ権限を同期すると、他のパーティションへのフォルダ権限もそのパーティションに追加されます。現在のパーティションに属さないフォルダの同期では、権限の問題は何も生じません。
----------------------------	-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>アップグレード後の一部の Campaign 構成プロパティが正しくない</p>	<p>DEF045746</p>	<p>Campaign のバージョンを 7.x から 8.1.0 にアップグレードした場合、一部の構成プロパティが正しくありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部のプロパティ表示名に「Affinium」が表示されます。この名前の不整合によって機能が影響を受けることはありません。 Campaign カテゴリに、Campaign 8.1.0 では使用されない「unicaUdiSvr」カテゴリおよびそのプロパティが表示されます。 <p>configTool ユーティリティを使用して、表示名から「Affinium」を除去したり、「unicaUdiSvr」カテゴリを除去したりすることができます。以下に、これを行う方法について例を挙げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Marketing Platform のインストール済み環境の tools/bin ディレクトリでコマンド・ウィンドウを開きます。 configTool を使用して、すべての Campaign プロパティをファイルにエクスポートします。以下の例のコマンドは、tools/bin ディレクトリにある campaignProperties.xml という名前のファイルにプロパティをエクスポートします。 <pre>configTool -x -p "Affinium Campaign" -f campaignProperties.xml</pre> <ul style="list-style-type: none"> テキスト・エディターまたは XML エディターでエクスポートされたファイルを編集します。 configTool を使用して、改訂されたファイルを上書きオプションでインポートします。以下に例を示します。 <pre>configTool -i -p "Affinium" -f campaignProperties.xml -o</pre>
<p>7.2.x から 7.5.x へのアップグレードの際にパーティション・メンバーシップが失われる</p>	<p>DEF046155、 DEF046162</p>	<p>Affinium Manager のバージョンが 7.5.x よりも前である場合、Marketing Platform バージョン 8.1.0 へアップグレードする前に 7.5.1 にアップグレードする必要があります。Affinium Manager 7.5.1 のアップグレード・スクリプトは、自動的にパーティション・メンバーシップを保持しません。代わりに、Marketing Platform 8.1.0 にアップグレードする前に手動でパーティション・メンバーシップを復元する必要があります。このプロセスは「Marketing Platform インストール・ガイド」に説明されています。</p>
<p>Active Directory ユーザーが NetInsight または Customer Insight にログインできない</p>	<p>DEF046778</p>	<p>Marketing Platform が Active Directory と統合している場合、Active Directory または LDAP サーバーと同期しているユーザーは NetInsight または CustomerInsight にログインできません。</p>
<p>IBM Unica Marketing アプリケーションをアンインストールしてもそのメニュー項目が除去されない</p>	<p>DEF047048</p>	<p>IBM Unica Marketing アプリケーションをアンインストールしても、そのアプリケーションのメニュー項目が「構成」ページに残ります。それらを除くには、「構成」ページに移動し、「Platform」 「Platform 全体のナビゲーション」カテゴリの下にある適切なメニュー設定を探して「カテゴリの削除」をクリックします。</p>

LDAP グループ・マッピングを削除してもマップされたグループからユーザーを除去できない	DEF047290	「構成」ページから LDAP グループ・マッピングを削除した場合、マップされたグループにインポートされたユーザーはそのグループから除去されません。グループからユーザーを手動で除去してください。
レポートの実行を取り消すとエラーが生じる	DEF047550	実行中のレポートを取り消した後、別のレポートを実行しようとするときエラー・メッセージが表示されます。「分析」メニューを選択して再度レポートを実行してください。
長さの制限を超えた役割名を入力すると情報が足りないエラー・メッセージが表示される	DEF047639	役割名に 120 文字 (長さの制限) を超えて入力すると、「エラー 500 -- 内部サーバー・エラー (Error 500--Internal Server Error)」というエラーが表示されます。メッセージは長さの制限を示すものであるべきです。
Windows 統合ログインを使用した「ログアウト」リンクが冗長である	DEF047870	Marketing Platform が Windows Active Directory と統合されていて、Windows 統合ログインが有効な場合、「ログアウト」リンクを使用してログアウトすることはできません。「ログアウト」をクリックした場合、ブラウザ・セッションは終了し IBM Unica Marketing をログアウトしたように見えますが、再度自動的にログインします。IBM Unica Marketing をログアウトしたら、ブラウザを閉じてください。
「プリファレンスの編集」を使用して「開始」ページを設定するときに IBM Unica Marketing URL を使用できない	DEF050523	ユーザー用の「プリファレンスの編集」ページを使用してそのユーザーの「開始」ページを設定する場合、初期 IBM Unica Marketing ログイン URL (http://host:port/unica) を使用すべきではありません。使用すると問題が起きます。
スロットル・グループ名では非 ASCII 文字は許可されない	DEF050689	スケジューラーのスロットル・グループを作成する場合に非 ASCII 文字を使用するとエラー・メッセージが表示されます。スロットル・グループ名には ASCII 文字のみを使用してください。
「構成」ページでのローカライズの問題	DEF048882、 DEF050265、 DEF050787	<p>「構成」ページに次のローカライズの問題があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「構成」ページの IBM Unica Marketing 製品名はローカライズされていますが、それらはローカライズされているべきではありません。さらに、ローカライズされるべき他のコンテンツがローカライズされていません。 「構成」ページから「設定」メニューにアクセスすると、メニュー項目がローカライズされていません。 カテゴリー・テンプレートを使用して作成されたカテゴリー名では非 ASCII 文字はサポートされていません。

<p>7.5.x から 8.1.0 へのアップグレード中にエラーが発生する</p>	<p>DEF050735</p>	<p>Affinium Manager 7.5.x から Marketing Platform 8.x にアップグレードする場合、既存の Manager システム・テーブルに格納されているデータ・ソース・キーは非暗号化し、その後 8.x のデータベースに格納するために再度暗号化しなければなりません。</p> <p>(encryptPasswords -k) を使用して 7.5.x で鍵ストア・パスワードを変更しており、かつ Platform が AIX にインストールされているのではない場合、次の手順を使用して問題を解決することができます。</p> <p>この回避策は、Platform が AIX にインストールされている場合には適用されません。その場合、IBM Unica Marketing にログインし、データ・ソースのパスワードを手動で変更する必要があります。</p> <p>この手順では、最新の Java Cryptography Extension (JCE) Unlimited Strength Jurisdiction Policy Files 5.0 を持っていることを確認します。</p> <p>これらのファイルは、http://java.sun.com/javase/downloads/index_jdk5.jsp からダウンロードします。</p> <p>Java Cryptography Extension (JCE) Unlimited Strength Jurisdiction Policy Files 5.0 にスクロールし、以下を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Manager 7.5.x インストールの JRE に更新済みの JCE Unlimited Strength Jurisdiction ファイルがあることを確認します。ダウンロードの説明に従って、local_policy.jar および US_export_policy.jar を jre/lib/security ディレクトリーにコピーします。 2. encryptPasswords -k を使用して、鍵ストア・パスワードを再び暗号化します。 3. Platform インストーラーで提供されている JRE を使用しない場合、使用する予定の JRE の JCE Unlimited Strength Jurisdiction ファイルの更新も行います。 4. Platform インストーラーを実行します。これにより、鍵が 8.x に移行されます。 <p>JCE の更新が行われなかったか、Platform システム・テーブル・データベースが AIX であるためにこの回避策を使用できなかった場合、以下のエラーが表示される可能性があります。</p> <p>ファイル [<INSTALL_DIR>%Affinium%Manager%conf%kfile] から鍵を取得できませんでした。原因: 鍵のサイズが正しくありません。(Cannot retrieve the key from the file [<INSTALL_DIR>%Affinium%Manager%conf%kfile], cause: Illegal key size)</p> <p>javax.crypto.BadPaddingException: 埋め込みブロックが破損しています (javax.crypto.BadPaddingException: pad block corrupted)</p> <p>このエラーが発生する場合、IBM Unica Marketing にログインし、データ・ソースのパスワードを手動で変更します。</p>
<p>ユーザー名にスペースまたは句読文字を含めることができない</p>	<p>DEF051877</p>	<p>ユーザーのログイン名にスペースまたは句読文字が含まれていると、ユーザーはページ間を移動でき、IBM Unica Marketing を正常に使用することができませんが、JavaScript のエラーがすべてのページに表示されてしまいます。ユーザー・アカウントのログイン名にはスペースまたは句読文字を含めないでください。</p>

グループ名、役割名、およびポリシー名に非 ASCII 文字がサポートされない	DEF051431	グループ名、役割名、またはポリシー名に非 ASCII 文字を使用しようとすると、「英数字のみ使用してください」というエラー・メッセージが表示されます。これらの名前に非 ASCII 文字を使用しないでください。
重複するロール名は許可されていません。	DEF051895	Affinium Manager 7.5.x では重複するロール名は許可されていました。Marketing Platform 8.0.0 以降、重複するロール名は許可されません。7.x から 8.x にアップグレードしていて、同じ名前の役割が複数ある場合、アップグレードの前に名前を変更して重複が存在しないようにしてください。
Platform 7.5.x のアップグレード用ディレクトリーに対するインストーラーのメッセージが分かりにくい	DEF051952	Marketing Platform を 7.5.x から 8.1.0 にアップグレードする場合、インストーラーによって 7.5.x バージョンをインストールするディレクトリーを指定するようにプロンプトが出されます。インストーラーがそのディレクトリーにインストール・レジストリーを見つけることができない場合、「インストーラーは [ディレクトリー] に指定されたマネージャー・アップグレード・ディレクトリーを見つけることができませんでした」というメッセージが表示されます。アップグレード中にこのメッセージが表示された場合、指定したディレクトリーが正しいことを確認し、アップグレードを続行してください。

サード・パーティーのソフトウェアに関連した問題

このセクションでは、Marketing Platform バージョン 8.6.0 におけるサード・パーティーのソフトウェアに関連した問題について説明します。

特定の Oracle バージョンでマテリアライズ・ビュー SQL の生成時に障害が起こる	DEF041909	Marketing Platform のシステム・テーブル・データベースが Oracle の特定のバージョンの場合、レポート作成 SQL ジェネレーターを使用してマテリアライズ・ビューを作成すると障害が起きます。これは Oracle の障害 6485782 が原因です。この問題は Oracle バージョン 10.2.0.5 (サーバー・パッチ・セット) および 11.1.0.7 (サーバー・パッチ・セット) で修正されています。
----------------------------------------------	-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
170 Tracer Lane
Waltham, MA 02451
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

できます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、『www.ibm.com/legal/copytrade.shtml』をご覧ください。

IBM Unica テクニカル・サポートへのお問い合わせ

文書を参照しても問題を解決できない場合には、IBM Unica テクニカル・サポートにお問い合わせください。御社指定のサポート担当者は通話を記録できます。問題を効率的に問題なく解決するために、本セクションの情報をお使いください。

御社の指定サポート担当者ではない場合は、最寄りの IBM Unica 管理者に連絡し情報を入手してください。

収集する情報

IBM Unica テクニカル・サポートに連絡する前に、以下の情報を収集してください。

- 問題の性質の要旨。
- 問題発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細な記録。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、設定ファイル、およびデータ・ファイル
- 「システム情報」に記載されている、お客様の製品およびシステム環境に関する情報

システム情報

IBM Unica テクニカル・サポートへお問い合わせいただく際に、お客様の環境に関する情報の提供をお願いすることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、インストールされている IBM Unica のアプリケーションに関する情報が表示されます。

「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択すると、「バージョン情報」ページにアクセスできます。「バージョン情報」ページにアクセスできない場合でも、各アプリケーションのインストール・ディレクトリーに置かれている `version.txt` ファイルを表示すれば、すべての IBM Unica アプリケーションのバージョン番号を入手できます。

IBM Unica テクニカル・サポートへのお問い合わせに関する情報

IBM Unica 技術サポートとの連絡を取る方法については、IBM Unica 製品技術サポートの Web サイト (<http://www.unica.com/about/product-technical-support.htm>) を参照してください。



Printed in Japan